

令和6年度 第43回全国高校生建築製図コンクール結果報告

製図コンクール運営委員会
委員長 森嶋 真一

第43回全国高校生建築製図コンクールに際して、東日本建築教育研究会の加盟校および加盟校以外の先生方から、校務ご多忙にもかかわらず絶大なるご協力を頂きました事を厚くお礼申し上げます。

1. 応募校数

応募校数		全日制		定時制		加盟校				加盟校以外			
						全日制		定時制		全日制		定時制	
2024	2023	2024	2023	2024	2023	2024	2023	2024	2023	2024	2023	2024	2023
40校	37校	37校	35校	3校	2校	34校	33校	3校	2校	3校	2校	0校	0校

2. 応募作品数

課題名	加盟校別	年度	学校数・作品数		全日制・作品数		定時制・作品数	
			学校数	作品数	学校数	作品数	学校数	作品数
課題1	加盟校	2024	31校	74点	28校	69点	3校	5点
		2023	28校	70点	26校	66点	2校	4点
	加盟校以外	2024	3校	9点	3校	9点	0校	0点
		2023	2校	5点	2校	5点	0校	0点
課題2	加盟校	2024	9校	19点	9校	19点	0校	0点
		2023	11校	24点	11校	24点	0校	0点
	加盟校以外	2024	1校	2点	1校	2点	0校	0点
		2023	1校	3点	1校	3点	0校	0点
課題3	加盟校	2024	10校	27点	10校	27点	0校	0点
		2023	12校	30点	12校	30点	0校	0点
	加盟校以外	2024	1校	3点	1校	3点	0校	0点
		2023	0校	0点	0校	0点	0校	0点
課題4	加盟校	2024	6校	15点	6校	15点	0校	0点
		2023	2校	5点	2校	5点	0校	0点
	加盟校以外	2024	1校	3点	1校	3点	0校	0点
		2023	1校	3点	1校	3点	0校	0点
課題5	加盟校	2024	5校	9点	5校	9点	0校	0点
		2023	5校	12点	5校	12点	0校	0点
	加盟校以外	2024	1校	3点	1校	3点	0校	0点
		2023	1校	3点	1校	3点	0校	0点
応募校計		2024	164校		(加盟校：144点・加盟校以外 20点)			
		2023	155校		(加盟校：141点・加盟校以外 14点)			

3. 校内作品審査数の総計

加盟校別	年度	課題1	課題2	課題3	課題4	課題5
加盟校	2024	811点	142点	239点	21点	30点
	2023	975点	286点	318点	11点	44点
加盟校以外	2024	104点	2点	3点	4点	3点
	2023	29点	4点	0点	6点	4点
審査数計	2024	915点	144点	242点	25点	33点
	2023	1,004点	290点	318点	17点	48点

4. 審査について

(1) 賞の選出

- ①各課題最高作品を金賞とし、順次銀賞、銅賞、入賞とする。
- ②各課題において、定時制課程の参加作品から、入賞以上を選出する。

(2) 審査方法

①1・2次審査

- ア. 各委員が課題毎に4人1チームを編成し、「リレー方式」の審査を行う。(原図の複写図を委員の所属校に送付し、審査を行う。終了後、次の委員の所属校へ送付し順次、審査を行う)
- イ. 複写図を使用し、表題欄はカットする。
- ウ. チェックを書き込む。(委員毎にペン色を変えて書き込む)
- エ. 各課題参加数の1/3～1/5程度(最大20点程度)を目安に絞り、入賞作品の対象とする。
- オ. 審査は、「課題別審査の観点」に沿って行う。
- カ. 作品を相対的に比較する。

②最終審査

- ア. 審査は、集合方式の審査を行う。
- イ. 図面は、1・2次審査で使用した複写図面を使用する。
- ウ. チェックを書き込む。(赤ペンで書き込む)
- エ. 入賞作品以外の作品で再度入賞以上に該当するものがないか確認する。
- オ. 最終決定を投票で行う。
- カ. 原図の確認を行う。

(3) 課題別審査の観点(参考)

①課題1「軒先マワリ詳細図」

- ア. 図が正確に描かれているか。(部材の大きさや厚み・金物等の形状・部材相互の距離等)
- イ. 明瞭な図であるか。(線の使い分け・線の始端から終端まで均一な太さ、濃さであるか)
- ウ. 文字や数字は明瞭で正確であるか。(抜けている、大きすぎる、小さすぎる、形状がバラバラ等)
- エ. その他
 - 松丸太に関して
 - ・太鼓落しを表現する曲線はフリーハンドより定規使用の方が良い。
 - ※ただし曲線がフリーハンドで描かれていても失格ではない。
 - 野縁に関して
 - ・位置は軒桁中心から測られているか。
 - 天井に関して
 - ・位置が製図例2-6に基づいているか。
 - 線の使い方に関して
 - ・下書き線が濃すぎないか。
 - ・仕上げ線(断面線)が極端に太すぎないか。

②課題2「木造平家建専用住宅」

- ア. 平面図・立面図・断面図が正確に描かれているか。(教科書3章に準じているか)

- イ. 外構計画に工夫があるか。
- ウ. 文字や数字は明瞭で正確であるか。(抜けている、大きすぎる、小さすぎる、形状がバラバラ等)
- エ. 図面相互に違いがないか。
- オ. 明瞭な図であるか。(線の使い分けが正しいか)
- カ. 製図規約を重視しているか。
- キ. その他

配置図兼平面図に関して

- ・道路境界線、隣地境界線と建物の距離が抜けていないか。
- ・隣地境界線を実線で描く等、線の使い方を間違えていないか。
- ・床の仕上げを表現していないか。

立面図に関して

- ・全体的なバランスが良いか。

断面図に関して

- ・平面図に記された切断線の位置との違いがないか。

③課題3「木造2階建専用住宅」

- ア. 計画性を重視する。
- イ. 配置・平面・立面・断面・外構の計画に工夫があり機能的であるか。
- ウ. 構造的に無理がないか。
- エ. 製図規約に配慮しているか。
- オ. その他

設計主旨に関して

- ・主旨と計画に違いがないか。

配置図兼平面図に関して

- ・道路境界線、隣地境界線と建物の距離が抜けていないか。
- ・家族構成に対して、所要室や各室の面積に配慮しているか。
- ・将来的に高齢者に配慮した計画であるか。
- ・外構計画において高低差に配慮しているか。
- ・車と駐車スペースの大きさや表記方法に間違いがないか。
- ・平面図に家具が記入されているか。
- ・平面図に柱や通し柱が抜けていないか。
- ・平面図に記された階段の段数は正確か。
- ・平面図に記された階段には、手すりを設けているか。

立面図に関して

- ・平面図との違いがないか。
- ・全体的なバランスが良いか。

断面図に関して

- ・切断位置が開口部を含む位置であるか。
- ・形状が不適切でないか。(異常に高すぎる、低すぎる)
- ・高さに関する寸法の記入があるか。

④課題4「木造平家建専用住宅」(CAD製図)

- 注意：2枚提出されているか。(1枚しか提出されていない場合は失格とする)

- ア. 敷地の形状や配置・外構計画に工夫があるか。
- イ. 平面図は正確に描かれているか。(教科書第3章に準じているか)
- ウ. 立面図に工夫があるか。(窓の形状や種類、位置等が平面

図と異なっていないか)

- エ. 断面図に工夫があるか。(屋根形状を生かした内部空間であるか)
- オ. 屋根の形状に工夫があるか。(機能を充たす屋根の形状であるか)
- カ. 図面相互に違いがないか。
- キ. 明瞭な図であるか。(線の使い分けが正しいか)
- ク. 製図規約を重視しているか。
- ケ. その他
- ・ロフトを計画した場合は、それを平面図や断面図等に描いているか。
 - ・手書き表現で描かれているか。(CAD特有の表現のままでないか)

⑤課題5「木造2階建専用住宅」(プレゼンテーション作品)

注意：2枚提出されているか。(1枚しか提出されていない場合は失格とする)

- ア. プレゼンテーション・表現を重視する。
(プレゼンテーションとつくりだされている作品が一致しているか)
- ・パース、模型、説明、着色等で判断する。
- イ. 製図規約については重視しない。
- ウ. その他
- ・計画や表現はオリジナリティがあるか。
 - ・各図面間での整合性はあるか。
 - ・縮尺については重視しない。
 - ・表面に氏名等を記入しない。

(4) 令和7年度に向けて

①課題1「軒先マワリ詳細図」

令和6年度 新課程版教科書発刊に伴う、製図例の変更。

(令和4年度から継続)

令和7年度 変更なし

(全課程・全年次の新課程版への移行完了)

②課題2「木造平家建専用住宅」

令和6年度 変更なし

令和7年度 変更なし

③課題3「木造2階建専用住宅」

令和6年度 変更なし

令和7年度 変更なし

④課題4「木造平家建専用住宅(CAD製図)」

令和6年度 変更なし

令和7年度 変更なし

⑤課題5「木造2階建専用住宅(プレゼンテーション作品)」

令和6年度 変更なし

令和7年度 変更なし

⑥共通事項 課題1～課題4の表題欄に課題番号を記入する。

5. 審査講評

(1) 課題1 軒先マワリ詳細図

金賞図面は、若干のかすれが見受けられましたが、正確に描かれており、線の強弱が明瞭でとても見栄えがある作品でした。また、文字も明瞭で全体のバランスも良くきれいな仕上がりでした。

金賞以外の図面についても、見切縁など細部にまで注意をして丁寧にかかれた作品など努力が見られる素晴らしい作品が多くありました。しかし、軒桁中心線と軒桁の断面表示の中心が一致していないものや文字の書き間違いなど、惜しい作品が多くありました。

【アドバイス】

次年度は、断面線や見え掛り線などの種類を区別し、メリハリのある明瞭かつ正確な図面を描くことに重点を置いて作図を試みてください。線の種類や太さにはそれぞれ意味があります。図面を見て一目で分かる表現、バランス、正確な寸法や間隔にも注意しながら描くことが大事です。

(2) 課題2 木造平家建専用住宅

金賞図面は、線の種類や太さを正しく使い分けて描けており、文字や数字も読み取りやすく、造園計画においても細部まで表現され、丁寧に仕上げられた作品でした。

金賞以外の図面についても、全体的に明瞭かつ丁寧に描き込まれている作品が多く見られました。しかし、図面配置が適切でないものや平面図と立面図の整合性が取れていない作品も見受けられました。

【アドバイス】

次年度は、要項と教科書の課題図の読み込み、正確な図面を作図することを心掛けて挑戦してください。課題1同様に線の種類や太さなど基本を忘れず、正確な図面表現をした作品を求めます。

(3) 課題3 木造2階建専用住宅

金賞作品は、図面内の縮尺表記がない箇所も見受けられるが、テーマや設計主旨に沿って、「心をつなぐ家」と題した通り、高齢者やプライバシーにも配慮した平面計画がされている作品でした。また、外観のデザインにも工夫を凝らされており、造園計画が見事にまとめられている見ごたえのある、家族の住まい方を提案する作品でした。

金賞以外の図面についても、家族団らんができるスペースに加えて、「個」を大切にしたいと思わせるプランが多く見受けられました。一方で大空間を作ろうとする思いが先行し、構造的に心配になるプラン、外構の書き込みが多すぎるため平面図が埋もれてしまっている作品が多くみられました。作品の提出期限に追われ、製図規則に準じていない表記(線のメリハリ・線種・建具表記等)になり雑に仕上げてしまうことがあります。それではせっかくの考えたプランが台無しになってしまいます。時間配分など十分に考え作図に臨んでください。

【アドバイス】

要項をよく確認し、設計条件を満足させるオリジナルの図面を描いた作品を期待します。また、高低差処理の表現や階段の表現などは教科書を参考して、基本に沿った作図を意識してください。書き込み密度の高い図面は、人々の生活がイメージしやすい反面、建物内外の境目や、メインの建物の見えにくさ等の課題を感じます。

密度を上げつつ、線の太さや濃淡を意識することで製図作品としての伝わりやすさが向上するはずだ。

(4) 課題4 木造平家建専用住宅 (CAD製図)

金賞作品は、用紙にバランス良く図面を配置できており、造園計画や屋根仕上げなど表現力も高く、CADの持つ機能を十分に活用し、表現している作品でした。

金賞以外の図面についても、立面図や断面図、屋根伏図において、細かな工夫が盛り込まれている作品が多く見られました。一方立面図において、開口部の位置がずれているなど図面相互の不整合がある作品も見受けられました。

【アドバイス】

この課題についても課題2同様に、要項と教科書の課題図をしっかり読み込んだうえで、作図力や正確な図面表現をした作品を求めます。また、印刷後の図面表現(印刷設定)も配慮して作図を試みてください。

(5) 課題5 木造2階建専用住宅 (プレゼンテーション作品)

金賞図面は、全体のレイアウトがよく、外観透視図を取り入れるなど、より一層想像しやすいプレゼンテーション作品でした。また、テーマ、設計主旨に沿った住まい方を提案する作品でした。

金賞以外の図面についても、自分の好きなものを絞り込み、それに向けてとことんこだわり抜く作品が多くありました。趣味をしながら過ごせるプランの提案や、動物のすみかや外観をモチーフにするなど、とてもワクワクさせてもらいました。また、ダイアグラムを用いることで、作品コンセプトの理解が深まり分かりやすい作品やCADやBIMを活用して魅力的にプレゼンテーション出来ている作品が数点見受けられました。

【アドバイス】

直線や曲線が綺麗に表現される反面、他要求図面端とのXY軸のずれや、線の太さの違いなどに基本的作図の抜けがないように作図を試みてください。また、伝えたいことを適切に伝えるために、全体のバランスをよく見て、最終的な表現を判断できるようにしてください。手書き図面では図面と文字を同一人物が描くため、紙面として一体的な作品となるが、CAD作品ではフォントやサイズ・色によって、各種図面と文字とがばらばらに感じる作品があります。CADでは各種図面配置を複数パターン検討し、よりコンセプトに忠実なレイアウトを探ることができると思います。様々なプレゼンテーション図面を見て、分かりやすい表現を参考にするとより良い作品が仕上がると思います。

6. 入賞者

(1) 課題1 軒先マワリ詳細図

金賞

東京都立蔵前工科高等学校 建築科1年 樽野 花笑

銀賞

静岡県立科学技術高等学校 建築デザイン科1年
小林 莉瑠

銅賞

東京都立蔵前工科高等学校 建築科1年 安藤彩也香

静岡県立浜松工業高等学校 建築科1年 山崎 瑛子

神奈川県立神奈川工業高等学校 (定時制)

建設科1年 佐藤 美羽

入賞

静岡県立科学技術高等学校 建築デザイン科1年
村石帆希実

東京都立蔵前工科高等学校 建築科1年 早乙女さち

宮城県石巻工業高等学校 建築科1年 虎 愛煌

千葉県立市川工業高等学校 建築科1年 辻 隼斗

愛知県立愛西工科高等学校 建築デザイン科1年
大賀 芽莉

(2) 課題2 木造平家建専用住宅

金賞

愛知県立半田工科高等学校 建築デザイン科2年
村井なな子

銀賞

愛知県立半田工科高等学校 建築デザイン科2年
大鹿 馳瀧

銅賞

愛知県立半田工科高等学校 建築デザイン科2年
片上 空

神奈川県立神奈川工業高等学校 建設科2年 管浪 凜

松山聖陵高等学校 建築科2年 野村 颯太

入賞

岐阜県立岐南工業高等学校 建築工学科2年
岡本あかね

愛知県立豊橋工科高等学校 建築デザイン科2年
堀 玲那

神奈川県立神奈川工業高等学校 建設科2年
森田 裕理

(3) 課題3 木造2階建専用住宅

金賞

岐阜県立岐南工業高等学校 建築工学科3年
名知百合美

銀賞

松山聖陵高等学校 建築科3年 原田 佳恋

神奈川県立神奈川工業高等学校 建設科3年 木崎 恵真

銅賞

山梨県立富士北稜高等学校 建築デザイン系列3年次
杉崎 小花

愛知県立碧南工科高等学校 建築デザイン科3年
平野 虹羽

神奈川県立神奈川工業高等学校 建設科3年 正木日真珠

宮城県石巻工業高等学校 建築科2年 榎 琴

山梨県立甲府工業高等学校 建築科3年 大橋 海努

山梨県立甲府工業高等学校 建築科3年 小澤 瑠希

山梨県立甲府工業高等学校 建築科3年 長久保拓斗

(4) 課題4 木造平家建専用住宅 (CAD製図)

金賞

愛知県立半田工科高等学校	建築デザイン科3年	榊原 涼香
銀賞		
愛知県立一宮工科高等学校	建築デザイン科1年	森 梨紗
松山聖陵高等学校	建築科2年	兵頭 響己
銅賞		
愛知県立半田工科高等学校	建築デザイン科3年	榊原 裕太
愛知県立半田工科高等学校	建築デザイン科3年	藤田 蒼生
愛知県立愛西工科高等学校	建築デザイン科3年	山田 海偉
入賞		
愛知県立一宮工科高等学校	建築デザイン科1年	高羅ほのか
愛知県立一宮工科高等学校	建築デザイン科年	高須 芸乃
松山聖陵高等学校	建築科2年	矢野 東吾
松山聖陵高等学校	建築科3年	木村 湧音

(5) 課題5 木造2階建専用住宅(プレゼンテーション作品)

金賞		
松山聖陵高等学校	建築科3年	河野 隼也
銀賞		
愛知県立愛西工科高等学校	建築デザイン科3年	松永 隼
銅賞		
愛知県立一宮工科高等学校	建築デザイン科3年	鈴木 蓮
松山聖陵高等学校	建築科3年	南 舞
愛知県立愛西工科高等学校	建築デザイン科3年	猪子 湧雅
入賞		
愛知県立一宮工科高等学校	建築デザイン科3年	小野木晴菜
愛知県立一宮工科高等学校	建築デザイン科3年	吉岡 佑馬

7. 製図コンクール運営委員(令和6年度)

佐藤 康雄 (神奈川工定)	高野 史晃 (宇都宮工)
王 大地 (甲府工)	小松 昌史 (葛西工科)
鈴木 朝美 (葛西工科)	野村 建太 (神奈川工定)
中曽根 康 (前橋工定)	村井 和幸 (新津工)
笹崎 ひろみ (墨田工科)	荒木 宏道 (前橋工定)
畠山 弘幸 (石巻工)	萱沼 俊一 (白石工)
後藤 隆宏 (富士北稜)	佐々木 英治 (向の岡工)
松原 昌忠 (葛西工科)	首代 昌紀 (蔵前工科)
新田 航平 (つくば工科)	森嶋 真一 (富士北稜)

(敬称略・順不同)

令和7年3月31日

製図コンクール運営委員会